

今週の聖句

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」

ヨハネによる福音書 20章27節

ねらい

- ・ 私たちにはトマスのように復活のイエスを自分の目で見て信じるようになることはできない。しかし、イエスを私の主、私の神とする信仰が、トマスに復活を信じる信仰を与えたということを考えるなら、私たちもイエスと出会い、イエスを私の主とする時に復活を信じる信仰も与えられるということを覚えたい。

ポイント

- ・ トマスだけが主の復活を信じられなかったのではない。他の弟子たちも信じられなかったことを聖書は伝えている。トマスの姿は私たちの姿である。
- ・ 「見ないのに信じる人は、幸いである」これは見ないで信じる私たちを励まし、祝福する言葉である。
- ・ 復活を信じるということは、復活を告げる言葉を信じることである。それは弟子たちの証言だけでなく、イエスご自身の復活の予告(マルコ8:31他)を信じることである。また、今も生きて私たちと共におられるイエスへの信仰は、イエスが復活されたということに基づく信仰である。

豆知識

- ・ 「ディディモ」という名は「双生児」という意味であり、一般的な人名ではなかったので愛称であろう。「ディディモ」という名は「双生児」という意味であり、一般的な人名ではなかったようである。実際にトマスが双生児だったかは分からない。
- ・ 福音書において、イエスを「わたしの神」と告白したのはこのトマスだけである。

説教

「イエス様にお会いしたんだ!!」、「イエス様は生きておられたんだ!!」。家に帰ってみるとトマスさんは、お弟子さんたちのそんな言葉を聞きました。イエス様が十字架にかけられ殺されてしまった後のこと、お弟子さんたちが集まっていると、死んだはずのイエス様がその真ん中に姿を現されたということです。その時トマスさんは出掛けていたのですが、戻ってみるとお弟子さんたちからそんな話を聞きました。

そんなことって、あるでしょうか。トマスさんはイエス様が生き返られたなんて信じることができませんでした。それに、なんだか自分だけが仲間はずれにされているように思えました。みんなで相談して自分をだまそうとしているのでしょうか。イエス様が死んでしまって、悲しくて悲しくて仕方がないというのに、みんなで自分をだまそうとしているのだとしたら、そんなのひどすぎます。トマスさんは、ぷんぷんになってみんなに言いました。「イエス様が生き返ったなんて、僕は信じないからね。イエス様が僕の目の前に来てくださって、十字架にかけられた時の手のひらの傷跡やわき腹の傷跡に触らせてくださるなら信じてもいいけど、それができないなら僕は絶対に信じないからね。」

イエス様が生きておられるという話を聞いてから一週間が経ちました。その間、トマスさんはお

弟子さんたちと一緒に過ごしていたのですが、怒ったままです。あれからみんなとほとんど口を聞いていません。その時です。よく知っている声が聞こえました。「あなたがたに平和があるように。」トマスさんがはっとして顔を上げてみると、そこにはイエス様がおられました。こっちを見ておられます。「トマス。」イエス様はやさしく呼びかけられました。そして、手のひらをトマスさんの方に差し出し「あなたの手をここに当ててごらんなさい」と、またわき腹をトマスさんの方に向けて「手を伸ばして、ここを触ってごらんなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と言われたのです。イエス様の声を聞いたトマスさんは「イエス様、あなたは私の主です。私の神様です」と言いました。トマスさんは、心の底からイエス様を信じたいと思いました。自分のことをよく分かってくださり、大切に思っていてくださるイエス様といつまでも一緒にいたいと思ったのです。

私たちはトマスさんのようにイエス様を見ることはできません。けれども、イエス様は私たちひとりひとりのこともよく知っていてくださり、大切に思っていてくださいます。そして、そのことが分かる時に私たちもイエス様を信じて、イエス様とずっと一緒にいたいという気持ちになることができるのです。心の耳をイエス様に向けてみましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

115番

改訂88番

やってみよう

信じる人を作ろう

今日の聖書の箇所を読んで、イエスさまを信じるということについて考えて見ましょう。そして信じる人々の姿を作ってみましょう。

材料

- ・長い紙
- ・はさみ
- ・えんぴつ
- ・くれよん



長い紙を折る



人の形を描いて
はさみで切る

話してみよう

つながっている人々が完成

- ・トマスさんの気持ちはどのように変わっていったかな？ほかのお弟子さんの言葉を聞いた時、信じないと言った時、イエス様を見た時、イエス様の「あなたの手をここに当てて」という言葉を聞いた時、そして、イエスに「わたしの主、わたしの神よ」と言った時のトマスさんの気持ちを話してみよう。
- ・「信じる」ということについて、例えば「いつか宇宙旅行ができる」と信じる、や「テストに合格すると信じる」、また「友だちを信じる」という時の「信じる」の違いについて話してみよう。イエス様を信じる、復活を信じるということはどういうことだろう。

今週の聖句

「こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる」
ヨハネによる福音書 10章16節

ねらい

- ・イエスが私たちの羊飼いとなってくださり、ご自分の命を捨てて私たちに命を与えようとしてくださっていることを伝えたい。

ポイント

- ・イエスは「良い羊飼いは羊のために命を捨てる」と言われたが、自分の羊を持つ良い羊飼いであっても生活のために羊を飼っているのであって羊のために自ら命を捨てることは考えにくい。これはイエスの私たちへの関わりについての言葉である。
- ・神とその民を羊飼いとその羊に例えることは詩編23編やイザヤ40.11などに記されている。イエスは「わたしには…ほかの羊もいる」と言われた。マタイ28.16やマルコ16.15にあるイエスの世界への伝道命令を考えるなら、「ほかの羊」とは異邦人のことで、イエスはご自身を世界の人々をご自分の羊と考えておられたのである。

豆知識

- ・羊の囲いとは、悪天候の時や夜に羊を入れるために石や茨で作られた囲いのこと。
- ・羊の門は、羊の囲いの門のことで、門が仮小屋になっていて、羊飼いがそこで寝たり、門に羊飼いが横たわり、自らが戸となったりすることがあったようである。
- ・飼っている羊の一匹一匹の特徴やその名前を覚えている羊飼いもいるという。また、羊も自分の羊飼いの声を知っていて、その羊飼いに従うという。

説教

外国を旅した人のこんな話を讀んだことがあります。草原でのことです。その草原には小さな池があり、羊たちの水飲み場になっていました。羊飼いが何十匹という羊を連れてその水飲み場にやって来ました。少しして別の羊飼いがまた何十匹という羊を連れてその水飲み場にやって来ました。また少しして別の羊飼いが同じように何十匹という羊を連れてその水のみ場に来たのです。水飲み場は三人の羊飼いが連れて来たたくさんの羊で入り乱れています。旅人は、どの羊がどの羊飼いの羊か分からなくなってしまったけれど、どうするのだろうと思いながら見ていました。しばらくすると羊飼いたちはそれぞれ水飲み場から別々の方向に離れていきました。そして、それぞれの羊飼いが声をあげました。すると入り乱れていた羊たちは、自分の羊飼いの方へ動き出したというのです。羊たちは、自分の羊飼いの声を聞き分けて、それぞれ自分の羊飼いのところに集まっていったのです。羊は自分の羊飼いの声を知っていて、その声を聞き分けることができるのだそうです。

イエス様は「わたしは良い羊飼いです」と言われました。イエス様は私たちの羊飼いだと言われたのです。だから私たちはイエス様の羊です。だとすると私たちはイエス様の声を知っているということになります。どうだろう？ 私たちは、イエス様の声を知っているかな？ 「あ

っ、これはイエス様の声だ」と、イエス様の声を聞き分けることができるかな？ 「私はイエス様の声を知らないかもしれない」と心配になった人もいるかもしれません。けれども、心配する必要はありません。

最初に考えたいことは、羊飼いであるイエス様が私たちひとりひとりのことをよく知っていてくださるということです。私たちの声を知っていてくださり、私たちが「イエス様！」と呼びかけると、その声を聞いただけで誰が呼んだのかちゃんと分かってくくださるのです。そして、私たち一人一人のことをとっても大切に思っていてくださいます。私たちが羊飼いであるイエス様から離れて迷子にならないように守っていてくださるし、もし、迷子になってしまっても必ず見つけてくださると約束してくださっています。イエス様という羊飼いは、どんなことがあっても、自分の羊を守ってくださいます。イエス様は、自分の命を捨てても羊を守ると言われたのです。

そして、私たちのことが大好きなイエス様のことを、私たちも大好きでいるということが、イエス様の声を知っているということなのです。だから、安心していて大丈夫です。そして、イエス様という優しい羊飼いのことを周りにいる人たちに伝えていくことができたらと思います。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は "こどもさんびか" (日キ版) より

49番

改訂129番

やってみよう

カーネーションを作ろう

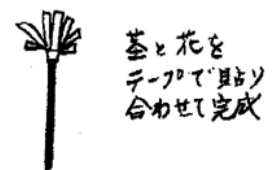
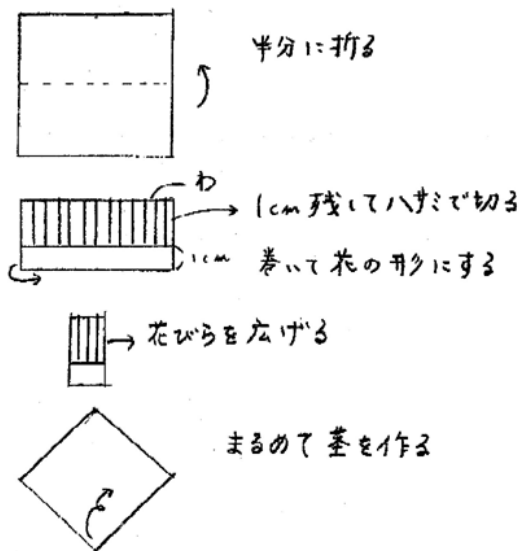
今日は母の日です。

母の日のプレゼントを作ってみましょう。

材料

- ・おりがみ(赤・緑・黄緑)
- ・はさみ
- ・テープ

何本か作って花束にしても綺麗です。



話してみよう

- ・イエス様はご自分を「羊の門」、「良い羊飼い」と言われた。イエス様のどういうところが「羊の門」なのか、また「良い羊飼い」なのか話してみよう。
- ・他にもイエス様はご自分を「命のパン」、「世の光」、「道、真理、命」と言われたよ。どういうことだろう。

今週の聖句

「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい」

ヨハネによる福音書 14章 11節

ねらい

- ・「神の家」「道」「真理」「命」「イエスと父なる神」など多くの主題となる事柄が記された箇所と言える。ここでは「神の家」を主題として、イエスによって私たちが神の家に招かれたことを伝えたい。

ポイント

- ・私たちは神の家を、神が私たちの神として永遠に共にいてくださるということの中に見いだすべきである。
- ・私たちは、既に神の家に住む者とされているし、この世の命を越えて神の家に住むという約束を与えられているのである。

豆知識

- ・2節の「用意しに行くと言ったであろうか」は分かりにくいですが、前後の脈絡から考えるなら「用意しに行くと言ったではないか」ということであろう。つまり、神の家には既に住む場所はたくさんあるが、万一足りなかった場合にイエス自らが住む場所を用意してくださるという約束である。

説教

今日のお話は、「神様の家」のお話です。神様はどんな家に住んでおられるのでしょうか？ イエス様が十字架にかかれる前の晩のことです。イエス様はお弟子さんたちに「神様の家にはたくさんの住む場所があります。あなたがたが住むための場所があります。もし場所が足りなければ、私がおその場所を用意してきます」と言いました。神様の家はとても大きな家なのでしょうか。何階建の建物なののでしょうか。いったい、いくつの部屋があるのでしょうか。イエス様の言葉を聞いたお弟子さんたちは、イエス様が何のことを言われているのか、さっぱり分かりませんでした。私たちも同じように思うかもしれません。

イエス様は、私たちが死んだ時に行く天国のことを言われたのだと考えることができます。天国の神様の家は、たくさんの人が住むことができる家なのだと思います。数え切れないほどのたくさんの部屋があるのかもしれないし、ひとつの部屋にみんなが入って、みんなで仲良く楽しく過ごすのかもしれないし、けれども、大切なことは、神様の家がどんな建物なのかということではなくて、そこが、神様が私たちと一緒にいてくださる場所だということ。どんな建物なのか、何階建てなのか、部屋がいくつあるか、そんなことが分かったら面白いなと思うけれど、それは私たちには分からないことで、分かっていることは、私たちのことを大切に思っていてくださる神様が一緒にいてくださる場所だということ。です。

もうひとつのことを考えなければならぬと思います。私たちが死んだ後のことではありません。今、生きている私たちが住むことのできる神様の家のこと。今、神様は私たちと一

緒にいてくださいます。だから、私たちはもう神様の家に住んでいるのです。それは目には見えない家、私たちの心の中にある家だと考えてもいいと思います。お祈りする時に神様のことを「天のお父様」と言うことがあるよね。神様は私たちのお父さん、私たちは神様の子ども、神様と私たちは家族なのです。見ることはできないけれど神様は私たちの家族、私たちのお父さんとして、いつも一緒にいてくださいます。

そして、私たちが神様の家に住むことができるようにしてくださったのが、イエス様です。イエス様が私たちのための場所を用意してくださったんだね。だから、今も私たちは神様の家に住んでいるし、いつまでも神様の家に住むことができるんだね。安心して、喜んで、この素晴らしい家のことを自分の周りにいる人たちに伝えていくことができたらいいなと思います。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

36番

改訂120番

やってみよう

イエスさまを通る迷路を作ってみよう

迷路の中の何か所かに『イエス』と書きそこを通らなければゴールが出来ない迷路を作ってみよう。出来たらゴール出来るか実際にやってみよう。

材料

- ・紙
- ・えんぴつ

話してみよう

- ・神様の家ってどんなところだろう。今みんなが住んでいる家とはどう違うのかな。
- ・教会は、神様の家かな？ 話してみよう。

今週の聖句

「わたしを愛する人は、わたしの父に愛される」

ヨハネによる福音書 14章 21節

ねらい

- ・前半は聖霊を送るという約束、後半はイエスと父なる神とが一つということが教えられている。ここではイエスと父なる神とが一つであり、イエスを通して神を知るということを伝えたい。

ポイント

- ・「いまだかつて神を見た者はいません」(ヨハネ 4.12)とあるように、神は見ることでできない方である。しかし、イエスを通して神はご自身を示されたのである。イエスと神はひとつであって、イエスを知ることが神を知ることである。
- ・「神は愛だからです」(ヨハネ 4.8)とある。イエスを通して、神の愛を知り、愛を受け、愛に応えて生きることが神を知ることでもある。

豆知識

- ・15節の「わたしの掟」とは、13.34にある「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」というイエスの「新しい掟」である。この掟を守るためには、イエスに愛され、その愛を受け入れ、愛に生かされることが何より必要だと教えられている。
- ・聖霊の働きについて教えられている。イエスは、私たちに父なる神を示してください、神と私たちを執り成してくださいとくださった方であり、聖霊は、私たちをイエスに、そしてイエスを通して神に押し出してくださいとくださる方と考えてよいであろう。

説教

みんなは神様を見たことがあるかな？ 神様はどんなお顔をしているのかな？ 神様を見ることができたらいいなと思うかもしれないけれど、私たちには神様を見ることはできません。神様を見た人はいないのです。見ることができないのだったら、神様のことは何にも分からないと思うかもしれません。けれども、私たちは神様のことをちゃんと知っているのです。どうしてかというと、イエス様が教えてくださったからです。神の子であるイエス様は、神様のことを私たちに教えるために私たちの世界に来てくださったのです。

「だけど、私にはイエス様を見ることもできない」と思うかもしれません。確かにそうです。今、こうして、みんなと顔と顔を合わせているように、イエス様と顔と顔を合わせて、自分の目でイエス様を見ることはできません。だから、イエス様も分からないのかと言えば、そうではありません。自分の目で見ることでできないものであっても、ちゃんと分かっているというものがあるのです。例えば、優しい気持ちは見ることはできません。けれども優しい気持ちは分かります。誰かを大好きだっという気持ちも見ることができません。けれども、大好きだっという気持ちも分かるのです。そのようにして、イエス様が私たちが思っていてくださる気持ちが分かる時に、私たちはイエス様が分かるのです。そして、そのようにしてイエス様が分か

るということは、心の目でイエス様を見ているということなのです。

イエス様は私たちといつも一緒にいると約束してくださっています。そのいつも一緒にいてくださるというイエス様の約束を私たちが信じる時、私たちの心の目はイエス様を見えています。イエス様は私たちのことが大切だと言ってくださっています。そのイエス様の気持ちが分かる時、私たちの心の目はイエス様を見ているのです。そして、心の目でイエス様を見ているということは、イエス様の心と私たちの心がつながっているということです。

そして、もうひとつ大切なことがあります。私たちが、心の目でイエス様を見る時に、私たちの心の目は神様をも見ているということです。イエス様を見るということは、神様を見るということなのです。そして、私たちの心がイエス様の心とつながるように、私たちの心の目が神様を見ているなら、私たちの心は神様の心ともつながっていることになるのです。そのようにして私たちが神様のことを分かるようになるために、イエス様は私たちの世界に来てくださったのです。いつも、心の目でイエス様を見ていたいと思います。また、そのようにして心の目で神様を見ていたいと思うのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

7 番

改訂 9 5 番

やってみよう

愛されることカードを作ってみよう

今日の聖書の箇所を読んで、愛される自分になるためにはどのようにしたらよいかを考えましょう。みんなで自分が思う愛されることを発表し合いましょう。好きな形のカードを作ってそこに書いてみましょう。

- ・色画用紙
- ・サインペン
- ・はさみ

話してみよう

- ・イエス様も父なる神様も聖霊も神様のこと。どう違うのか、どこが同じか話してみよう。
- ・愛するってどういうことだろう。話してみよう。